ホッパー大学を卒業して

まず組織固めから

創意性生かした組合活動を

去る十日から開校したホッパー大学も、去る二十八日で第五期生が卒業して当初の計画は多くの成果を残して終了した。この成果の上に立ってこんどの計画はいま検討中であるが、引きつづき開校を求める声が高くなっている。第三期が終了した日、このホッパー大学を訪ね受講を終えた人たちに出席してもらい、いろいろ話し合ってもらった。

出席者

本所　鈴島九十九
港務　梅崎寅之助
四山　村中利行
三川　花田孝義
宮浦　広川滋

司会　三日間の講習もこれで一応終つたわけですが、この講義のなかでどんなことに感銘をうけましたか。

花田　いまさらながら再認識したのは、資本主義社会における労働者の位置ということですね。これをしつかりつかむのが一番大事だと思いました。

広川　三池闘争の評価でも、負けたという気持はかなりあるわけですが、ながい目でみれば負けたという考えはあやまりだ。

村中　闘争はまだ現につづいているんですからね。勝つた負けたという評価はまちがいですよ。

司会　講義の内容やもちかたについてはどうですか。

村中　期間が短かすぎたですね。

広川　期間の短かかつたせいもあるでしようが、話がどうにもウワツベラというか、一般論にながれすぎた気がしました。もつと具体的に深く掘り下げて教えてもらいたかつたと思います。

梅崎　私の感銘うけたのは京の上のたたかいですね。炭鉱労働者の抵抗力と労働者意識をしみじみ感じました。

司会　就労前後の活動としては、これ以上の脱落者を出さないこと。組合員の意識の確立と組織強化ということになりますね。

梅崎　三池としては、こんどがはじめての分裂の経験ですし、第二組合をかかえての職場活動をすすめることになるわけですが職場によつて分裂の度合いもちがうから、画一的な闘争方法はないと思う。また、ことばだけで説得することはできないでしよう。

花田　なんといつても、第二組合員を意識した労働者に目ぎめさせるための活動が主で、それから枝葉が出ていくんですね。

司会　もう、委員一人の力で職場をまとめることは困難でしようね。だから、本所でやつているような五人組などの組織をつくつて結束することが大事でしよう。同時に、主婦同志の結束も大切ですね。

梅崎　私の方は、会合を開くときは二回に一回は家族同伴です。これは集まるのがなかなかむずかしいですが、三回に二回ぐらいはみんなと顔があわせられる。そして、職場のみんなが家族とも顔みしりになる。通勤者なんかもいてむずかしいけど、どうにかやつてますよ。そのほか、みんなで十円の資金を出して、おたがいの助け合いの基金にしています。これは、給料前に緊急な出費のあるとき用だてるためのものですが、こんなことも団結に効果をあげています。

司会　おたがいの生活点検と世話役活動ですか、これも大切なことですね。

各人が意識を強めて

梅崎　当面は職場に復帰しても、実力による職場闘争は不可能と思いますね。そこで、第一に組織をより強める。そのため、就労後は職場で五人六人の単位にグループをつくり、そこで討議しあう、ということを申し合わせています。こういう真剣な態度は当然第二組合員にもわかつてもらえると思うんです。就業時間中の条件交渉なんかもこれらはできないかも知れません。しかし、話し合いとか職制にたいする抗議体制は、時間外でもいいし、キメのこまかい活動をやつていくべきだと思いますね。そして、たえず第二に呼びかけて意志の疎通をはかつていくことですね。

村中　私の職場は第一第二が半々くらいです。それに、職場活動もなんもやつてなかつたし、委員もむこうにいつてしまつたから、これからの活動はむずかしいだろうと覚悟しています。地についた活動というか、あせらずにやつていこうと考えています。

広川　私の職場では、このまえ話し合つたときにも職場活動はやれんのじやないか、という意見も出ました。しかし、そんなことはない、やれるし、やらなくてはならんということになりました。

この場合、第二もいれて話し合うかどうかということになるとうちはいれんでやろうというのが強いですね。

花田　私の職場はいくつにもわかれているし、一人ひとりが意識を強めてもらわんと食いあらされる。それだけこんどの職場活動はむずかしくなります。

鈴島　私たちは職制にどう対処するか話し合つたんですが、就労したあと職制と顔があつてもその圧力にまけんように、いま説得にくる職制に抗議をしていくことにしました。

学習は大切だ

司会　これからの運動の方向といいますか、三池労組の再建のためにどういう方針ですすんだらいいと思いますか。

梅崎　三池労組の再建といつてもいままでの基本線をかえることはないと思うんです。ただ、おかれている状態がかわつたからこれに合せた方針をたてることです。分裂したことにもいろんな要因があつたと思うんですがそれをほりさげてみる必要があり、そして、資本の攻撃があれば分裂するんだというだけでなく、どうして分裂させないでいくかということでしようね。

村中　派閥なんかも分裂の大きな要素ですね。

梅崎　上からつくられた組合の弱点を除去し得ていなかつたわけですね。それを根にして派閥も生まれた。同時に希望をいうと政党支持を組合にもちこむと組合員のなかに感情的な対立をもちこむことになる。これの解決に努力すべきだと思いますね。

司会　大衆闘争の徹底、大衆の創意性、創造性をくみとる指導というのがたいせつですね。

広川　そうです。三池もたたかつてきたわりにはサークル活動、文化活動は低調ですからね。

村中　そういう活動には青年が中心にならなくてはならんと思いますね。ところが、第二の方にも青年がたくさんいつていますぼくが道でそういう友だちに逢うんですが、そういう連中はほとんど労働運動に関心をもつてないんですね。組織を分裂させたということに罪悪感というか要切りをやつたという気持はないんです。

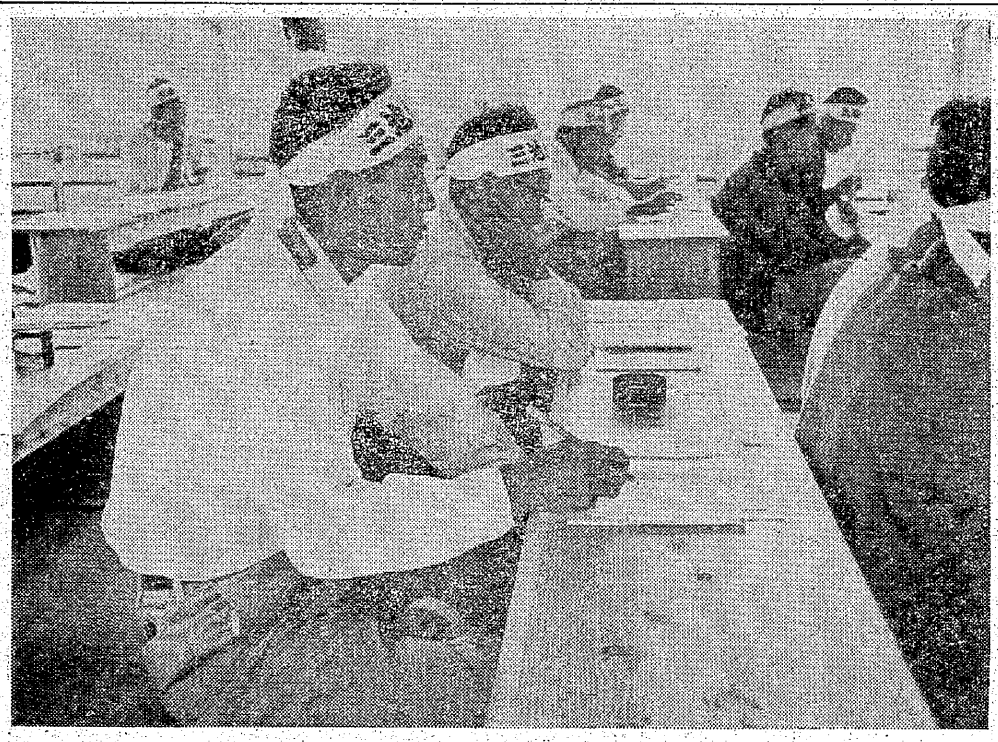
村中　でも一般に三十代、四十代の人にくらべるとちがいますね。

梅崎　やつぱり学習は大切です。私の職場にはヤクザ一家がいて組織活動なんかやれない。そのなかで学習活動を三年半ぐらいつづけていたんですが、その人たちだけが第一に残つていますこれが唯一の組織活動でもあつたわけです。

こうした活動のなかでほんとに企業意識をとり去り、企業別闘争から産業別闘争へという基本路線をうちたてることですね。

司会　とにかく、三池労組の真価がためされるのはこれからですたたかいの旗を高くかかげ、長所はのばし欠陥はあらため、ともに前進しましよう。

それが、全国の仲間たちにこたえる唯一の道だと思います。



真剣なホッパー大学受講風景

ひどい労働強化

分離後一年の製作所

「独立一周年を迎えた製作所の空気は明るい。賃金も上つたし、それに比べて残業もぐつと減つている……」と商業新聞では伝えている。果して手放しでほめることの宣伝をそのまま受けとつてよいものだろうか。ところが実体は決して喜べない状態になつているのである。暗い職場、労働強化、職制の強化……とじわじわと労働者のクビはしめつけられている。製作支部が脱落してはや一年、ここで一年を経た製作所の実体をのぞいてみた。

商業新聞ではここ一年間に時間外労働は少くなるし賃金は三千円アップになつたと報道していた。確かに残業は減つたし賃金の面ではいくらか手取りがふえたのは間違いないようである。ただ問題は以前の能率と比べると現在の生産能率（標準作業量）は、かなり大巾に引上げられてきている。

ということは、極端にいえば以前残業していた仕事を、拘束時間の中で消化してゆくということになる。そういう面からいうと実質的にはベースアップではなく、それだけの労働強化をおしつけられていることになるのである。生産能率は以前と比べて平均二十五％は一率に引上げられているといわれる。

職制は当然のように権限を強化してきた。例えば就業規則をたてにする厳格な職制の支配力が強化されてきている。

これに対して職場組織としての発言権や抵抗は大巾に抑制されている。だから配転などでは、からだの状態で無理だ、いやだと思つてもそういう意見は述べられない。職制のいうままに配転されている状態で、このような状況に不満をもつていても、すでに上の方で諦解ずみになつているから、いやが応でも応じなければならないということだ。また、この他にも以前はごく一部に二交替制があつたがさいきん大もの機械などを中心にその範囲がひろくなつている。

また、今でも交替の申し送りは残業して立会つて申送つていたのが残業がカツトされているため、普通はメモして申し送つているが、とくに重要な申し送り事項があるときは、一旦家に帰りわざわざ夜の十時ごろ再び作業場に出向いて申送つているということさえ、たまにではあるがやられている。

ふえる外註

分離後、目立つて多くなつたのは外注だろう。さいきんでは大阪周辺に相当出しているらしく、それも製品が完成するまでのものだから金額にしても大きい。

九州では佐賀付近や福岡の雑餉隈あたりまで出している。大牟田市内の中小企業はもちろん、将来もつともつと増やして行くのではなかろうかと思われる。

また、工場内の有休機械を一カ所に集めて請負（社外工）にやらせる計画もあり、これは早晩実施される見込みであり、すでに組合はこれを諦解している模様である。下請けのやり方で外注の一環として会社は機械を借す方法がある。これを典型的に取入れて有利な条件を獲得しているのに三池産業機械KKというのがある。これが将来は製作所の下請けの集約に発展するだろうともいわれている。

会社はこのように組合員の中から労働を買わないで、別の方から労働力の提供を求めている。これでは本当の意味での完全雇用は考えられないということである。

以上のように外注が多いことは、生産計画としては仕事が百八十％から二百％となつて、仕事はどれだけしてもしたらんということになるが、実際には現場では仕事がなく、仕事を要求したり手待ちの状態が出ているという皮肉な現象になつている。これも外注が多いための現象であろう。

製作所の組合員から搾取するとともに、外注によつて中小企業の労働者からも搾取しようとする貪欲な経営者の悪らつぶりである。

儲けは会社ばかり

執行部では分離のとき、指標の一つとして身分制度撤廃をあげ、職員、工員の差別をなくすると盛んに宣伝した。ところが分離後はや一年を経つても依然として身分制は現存し、職員の権限は逆に高められてきた。そういう今、定期の職員昇格問題が出てきている。

もちろん組合としては分裂時の指標でもあり反対の態度を出しているようであるが、現場ではおそらくそれはゼスチヤーではないかと分析しているようであり、執行部に対して闘う信頼感ではこたえていないようである。

以上分離一年を経た製作所の内部を概要を見てみたが、ともかく職場内の空気は不満がたまつており そしてその不満も堂々とは言いにくくなつているということは大きな問題である。

ある組合員は「残業がどうなつているのかサツパリ分らない。係員が勝手にしているので、だれも文句をいえない」とコボしていた。

分離したら生活は向上すると盛んに宣伝されていた製作所も、現実は労働強化をおしつけられ職制の厳しい監視の下におかれており、分離をしても儲けるのは会社だけであり、労働者の利益にはならないことをハツキリと物語つている

浅沼委員長の死を悼む

草野心平

一九六〇年。
この年は忘れられない事件が沢山おこつた。
その一つ。
浅沼社会党委員長暗殺される。
私は政治を知らない。
私はどの政党にも属さない。
私は然し
一人の日本人として
日本民族の一人として
沼さんの死を心から悼む。
少年の刃を心から憎む
少年の背後を更に深く深く怖れる

日本を憂するといつて日本をあやまる人たち。
間接に人殺しを援助する人たち。
その暗いテロリズムを憎む。

一九六〇年十月十二日。
沼さんは倒れた　でない倒された
一本の刃で突如
そして何百何千もの凶器が息をひそめて
何かを待ちかまえているような
不安と恐怖のいまは時代だ。

あの寒い日の新聞は「浅沼の死は当然のむくいだ」というようなことを
トラツクの
上から叫んでいたと伝えている。

地球の何処で。
日本を除いた何処の国で。
しかもまつぴるま　このような
暴言を耳にすることが出来るだろうか

死んだ沼さん。
途方もなく善意の人だつた沼さん
あなたは死にきれない。
死にきれない思いで息をひきとつた沼さん。

死ぬまぎわにも死ぬことを
意識しなかつたろう沼さん。
あなたは永久に
夢みることすら出来なくなりました。

けれども。けれども然し。
その全生涯を行動してきた
あなたの正義の夢は。
沼さん。断じて死なない。
その夢を生かせ。
その夢をたちきつたものを。
そのすべてをあばけ、
日本の現在のために
未来のために
これから生れる新しい歴史のために